

# 子どものコミュニケーション力を高める授業づくり

## ～新聞を活用して考えを深め発信する子どもの育成～

新潟市立東山の下小学校

### 1 NIE 実践のねらい

#### (1) コミュニケーション力を高める

当校の重点目標は「コミュニケーション力の育成」である。コミュニケーション力を高める授業の在り方や活動・場の工夫の仕方について、実践・研究委嘱を受けた3年間を通して、次の3つの成長を目指してNIE実践(以下、「新聞活用学習」という)を行う。

#### 東山の下小学校 NIE 実践のねらい

児童の成長	教師の成長	地域とのつながりの成長
新聞を読むことが好きになり、文章を読み取る力、必要感をもって情報を収集したり話し合ったりする力、工夫して発信する力などのコミュニケーション力が高まる。	新聞の特性や新聞活用学習への理解を深め、児童のコミュニケーション力を高める授業設計力や授業力、学校全体の言語環境をデザインする力が高まる。	新聞活用学習を通して地域の歴史や成り立ちを知り、地域の人と信頼関係を深め、協力して安心・安全で豊かなくらしを目指す等の地域とつながる力が高まる。

#### (2) 話し合う力を高める

#### 授業実践のベース「東山の下小学校『これだけメソッド』」

今年度の校内研究のテーマは「子どもの『話し合う力』を育てる」であり、6つの指導過程と4つの指導事項で構成した「東山の下小『これだけ』メソッド」(以下、「これだけメソッド」という)を設定して授業改善に取り組んでいる。この「これだけメソッド」に基づいた授業において新聞を効果的に活用する。

6つの指導過程とは、「課題」「考え1」「発表」「話し合い」「考え2」「なるほどノート」のことである。この過程で児童は、他者の考えに触れることを通して自分の考えとの共通点や相違点に気付いたり、よりよい考えはどれかを話し合ったりする。新聞記事を含む多様な考えに出会いながら、自他の意見を比較することで自分の考えが深まることを目指す。4つの指導事項とは、「板書これだけ」「ノートこれだけ」「発言これだけ」「ハンドサインこれだけ」のことである。

新聞を効果的に活用するとは、「どの記事を」「どのように教材化し」「指導過程のどの場面で」「どのように」活用すれば、学習意欲や課題意識を喚起・醸成し、「話し合い」が活性化および深化し、学習課題がよりよく解決されるかを考えて新聞を用いることである。また、ねらいに即して新聞の提示の仕方を工夫することである。

## 2 本年度の実践の概要および実践例

### (1) 「これだけメソッド」における新聞活用の位置付けの明確化

これまでの取組から、「これだけメソッド」の各指導過程での新聞活用において、共通の効果があることが分かった。今年度はそれらをまとめ、各指導過程での新聞活用を以下のように構想し実践を行った。

指導過程	指導すること	新聞活用の構想
課題	<input type="checkbox"/> 課題を板書し、赤枠で囲む <input type="checkbox"/> 課題をノートに書き、赤枠で囲ませる。	<b>新聞記事の中に問題がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>記事の内容そのものを考える対象とし、記事の提示により、子どもが疑問をもったり、分からない部分が生じたり、既習事項とのずれを感じたりする。</li> <li>新聞記事を基に学習課題を設定したり、課題把握を的確に行わせたり、教材文に書かれている事柄を身近に感じさせたりする目的で活用する。</li> <li>児童の発達段階や授業のねらいによって記事を加工して提示する事もあるが、新聞の特性を生かして提示する。</li> </ul>
考え1	<input type="checkbox"/> 課題に対する自分の「考え」「わけ（根拠）」を短く書かせる。	
発表	<input type="checkbox"/> 考え1を発表させる。 「私は<考え>だと思います。わけは<わけ>だからです。」	
話し合い	<input type="checkbox"/> ハンドサインを用いて質問、賛成・付け足し、反対などの考えを出させる。 「〇〇さんに賛成（反対・付け足し・質問）で〜。」	<b>新聞記事の中に考えるための手立てがある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題があつて、それを解決するための糸口やきっかけ、考えるための素材を新聞記事の中から見出させる。</li> <li>児童の話合いによる課題解決が難しくなった際に、記事を提示して既に出た考えの理解を助けたり、新たな視点で考えをもたせたりする目的で活用する。</li> <li>記事の提示が、話し合いの流れを妨げたり、学習課題に対する答え合わせになつたりしないよう留意する。</li> </ul>
考え2	<input type="checkbox"/> 話し合いが終わった後、再度自分の考えを書かせる。 「はじめは、××だと考えていたんだけど、△△に変わった。わけは…。」	
なるほどノート	<input type="checkbox"/> 誰のどんな考えに「なるほど」と思ったのかを書かせる。 「はじめは気付かなかったけど、〇〇さんの△△という考えを聞いてなるほどと思った。」など	<b>新聞記事の中に答え（学習の確認、発展問題）がある</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを補完したり、考えを適用したりする対象として活用する。</li> <li>学習を進めて得た解が、世の中とどのように結びついてるかを確認したり考えたりするために活用する。</li> <li>次時の課題づくりにつなげる目的で活用する。</li> </ul>

## (2) 個々の授業実践上の課題解決をねらった一人一実践の授業研究

「これだけメソッド」に基づいた「話し合う力」を高める授業で、個々の授業者が自己の授業課題を明確にし、その改善に向けて授業を構想・実践し、学年部を中心に授業研究を行った。その際、「話し合う力」を高める手立てとしての新聞活用の効果について検証し、改善点を明らかにした。

学年・教科・単元	「これだけメソッド」での新聞活用	新聞活用の効果・改善の視点
1年 国語 「ことばあそびうたをつくろう」	「課題」で見出しに擬態語が使われている食べ物の記事を提示し、「繰り返し言葉『モチモチ』は、どんなことを表しているのかな」と問い、「考え1」を書かせた。児童は、記事や写真をヒントに「歯ごたえ」を導いた。	既習の音を表す擬声語より難易度の高い擬態語を扱ったが、語彙の少ない1年生にも、写真を手がかりに、自分の経験を想起させながら考えをもたせることができた。
1年 生活科 「きれいな はな」	「課題」で写真と見出しを提示して興味をもたせ、「チューリップ染めは、何を使って、どんな風にするのか」と問い、「考え1」を書かせた。「話し合い」でリライトした記事を提示し、「使うもの」と「すること」をまとめた。	写真と見出し、記事を分けて提示したこと、また、記事をリライトする際、平仮名の分かり書きで示したことで、どの子も考えをもちやすくなった。
1年 生活科 「いきもの さがし」	「話し合い」で虫の捕り方を考える際、記事を提示し「虫をつかまえるにはどうしたらよいか」問うた。児童は写真とキャプションを比べて、大事だと思うところに線を引きながら読みとった。	豊富な写真やコツが分かりやすく書かれた記事の提示により、児童が興味をもって学習に取り組んだ。そのため昆虫採集の経験の少ない児童にも考えをもたせることができた。
1年 学級活動 「安全に登校しよう」	「課題」で見出し「～についていかない」を提示し、「どんな人について行ってはいけないのか」と問うた。「話し合い」で「知らない人」を導いたあと、記事を範読して「どんな人かは見た目では分からない」とまとめた。	写真や見出しを隠して提示したことが、話し合う動機付けとなった。「話し合い」後の見出し「見た目ではわからない」の提示や記事の範読がまとめとして有効だった。
1年 学級活動 「地震から身を守ろう」	「課題」で「学校の行き帰りの地震が起こったらどうしたらよいか」と問い、記事のイラストで「危険」を確認後、「どのようにして身を守るか」について「考え1」を書かせた。記事を読みながら「話し合い」を進めた。	イラストの提示は、児童に考えをもたせるために有効だった。記事には「ランドセルで頭を覆う」等、身の守り方が的確に示されており、ねらいの達成につながった。
2年 国語科 「かたかなでかくことば」	児童は、前時に片仮名で書く言葉の種類を学んだ。本時では、「考え1」を書かせた後、全員に一日分の新聞を配布し、片仮名で書かれた言葉を見つけさせた。「話し合い」では、視点を設けて仲間分けをさせた。	教科書から新聞へ検討の対象を広げることで、「自分にも新聞が読める」「もっと読んでみたい」という思いをもたせることができた。
2年 道徳科 「大切な家族」	自分の祖父母に思いをよせさせることをねらって、「課題」で敬老の日の新聞を提示した。その後、「手助け」のヒントになる記事を見せ「階段をゆっくりしか上がれないおじいさんになんと声をかけたらいいか」問うた。	記事の提示により、話題を自分ごととして捉えたり問われていることのイメージを確かにしたりすることができたため、全員が「考え1」を書くことができた。
2年 道徳科 「努力のつみかさね」	「課題」で「車いすラグビー国際大会 日本は3位」という見出しを提示し自分のもった印象を問うた。3位という結果をどのように受け止めるかを考えさせることにより、選手の努力と強い意思に気付かせた。	記漢字にルビをふってリライトした記事を複数回読ませたことで、全員が考えの根拠となる試合結果や選手の心情を理解することができた。

2年 道徳科 「かえってきたホタル」	教材の内容を身近に感じさせるため、「考え1」を書かせる前に地域の池での取り組みの記事を提示した。「話し合い」の中で児童が想像しにくい事実や歴史に気付かせるために提示した。	記事を見せたい部分にしぼって提示したため、どの子も考えることに集中をできた。どの記事も「考え1」の前で提示すれば、早期に多様な考えが出たとと思われる。
2年 道徳科 「日本のお米 せかいのお米」	課題設定後、「話し合い」で記事を提示した。教材文からの想像だけでなく、スペイン人の実際の感想を知った事で教材文の主人公の気持ちによりそって考えることができた。	記事から必要な部分を抜き出し、さらに「味がついていないご飯は風邪のときぐらいしか食べない」を囲んで強調して提示した事が、児童の内容理解を助けた。
2年 学級活動 「生えかわり期の 歯みがき」	生え変わり期の歯並びの特徴から普段の歯みがきの問題点に気付かせる。使用するワークシートを「歯みがきしんぶん」とし、「むし歯にならないためにはどんなみがき方がいいか」を話し合いながら新聞を完成させた。	家族に知らせることを前提にした新聞作りは、児童の意欲を高めた。授業の進行と共に完成する形式にした事で、どの子も容易に考えを表すことができた。
3年 国語科 『『ほけんだより』を 読み比べよう』	「話し合い」で教科書教材の筆者の伝え方の工夫を押さえた。実際の新聞記事でも同様の工夫があることを確かめるために「なるほど」で記事を提示し、見出しやリード文、図に着目させて工夫を確かめた。	身近な内容の記事提示が児童の興味を引きつけた。記事の見出しや解説図の添付などの工夫が適切だったため、児童は自分の「考え2」のよさを確認して自信をもった。
3年 社会科 「働く人と わたしたちの暮らし」	「課題」で洋服販売員の工夫を掲載した記事を読み聞かせた後、「スーパーではお客さんに来てもらうためにどんな工夫をしているか」を問うた。見学の事前準備であることを伝え、広告を用いて工夫を読み取らせた。	「課題」での記事の提示は、話題作りに役立った。見学の前段階としてメインの教材を新聞の折り込み広告にしたことで、児童は意欲的に発表した。
3年 理科 「かぜのはたらき」	風がものを持ち上げる力について、学習内容の深化・定着を図るために、「なるほど」で新聞を作成する際、的確に見出し語や記事が書けるように、これまでに読んだ記事を振り返らせた。	新聞を書く学習を設定することにより、教科書やノートを見直して書くべき内容を確認したり、実際の記事を参考にして見出し語を的確に設定したりすることができた。
3年 道徳科 「ちがいを知って」	「課題」で「外国人とうまく付き合っているか」のアンケート結果を提示し、課題「外国人とうまくつきあうために大切なことは何か」と問うた。「話し合い」でラグビーワールドカップでの異文化交流の記事を提示した。	統計上の傾向や実際に体験しにくい事柄について記事から読み取らせたことが、「考え1」のモチやすきにつながった。記事の即時性を生かしていた。
3年 総合的な学習 「地域のお宝大発見」	校区の池の外来種をどうすべきか考える「話し合い」で児童の考えが行き詰まったところで記事を提示した。同様の問題を抱えている他の地域の池での取り組みを、考えを広げるヒントとして読み取らせた。	話し合いが停滞することを予想して、準備していた記事を提示したことで、子どもたちの視野が広がり、全員が「考え2」を書くことができた。
4年 国語科 「暮らしの中にある 『和』と『洋』を調べよう」	記事から「課題」を設定した後、記事の内容を考える対象として「話し合い」で活用した。高田の町家で暮らす外国で育ったFさんの考えを読み取る事で、教科書の筆者の考えを実生活に近づけて捉え直させた。	前時までの学習を受けて新聞を読む必然がある課題を設定した事が動機付けとなり、全員が記事の伝える和と洋のよさや考え方を「考え2」や「なるほど」に書いた。
4年 国語科 「みんなで新聞を作ろう」	「課題」で新元号が発表された日の1面の記事を提示し、相手が最も知りたいことをメイン記事にしていることに気付かせ、地域に配布する「運動会新聞」のメイン記事	新聞記事は、自分の書きたいことや伝えたいことを目的に応じて書くことや、相手の知りたいことをリサーチして書くことが重要

	を何にするか話し合わせた。	であることを理解した。
4年 社会科 「くらしとごみ」	「課題」で「レジ袋有料 義務化へ」の記事を提示し「有料化で使用量を減らせるか」と問うた。「話し合い」後、社会での取り組みを知らせるために「マイバック先進地 次の手は」の記事を提示し「考え2」を書かせた。	過去に読んだ記事を提示したことでどの児童も考えをもつことができた。考えさせたいことに焦点化して「話し合い」の最初に記事を提示するとよい。
4年 体育科 「育ちゆく体とわたし」	戦時中の児童の様子や食事の内容を掲載した記事を提示。「成長するための食事はどんな食事か」と問い、「考え1」を書かせた後、「話し合い」で戦時中と今の体格や食事の比較から成長に必要な栄養素を見つけさせた。	注目させたい内容をリライトしてカード形式で順次提示したことで、全員に考えをもたせられた。記事の情報が、児童の学びたい思いを引き出していた。
4年 道徳 「目標に向かって一心に」	話し合いで広がったクラスの友達の考えと、記事で紹介されている子どもたちの事例の共通点に気付かせ、目標に向かってさらに粘り強く努力を続けていこうとする気持ちを高めることをねらって、「なるほど」で提示した。	児童が身近に感じられる内容で短時間に読める記事を複数提示した。友達の考えや新聞記事の事例を参考に、これからの生活で自分が大切にしたいことを書くことができた。
4年 総合的な学習 「エコエコ大作戦～食品ロスをなくそう～」 ＜研究発表会提案授業＞	「考え1」をもつための共通知識となる「食品ロス削減法案」と「食品ロスの半数近くは家庭ごみ」の記事を「課題」で示し、「食品ロスを減らすために自分たちにどんなことができるか」と問うた。小学生による給食ごみ削減の取り組み例を「なるほど」で提示し意欲付けをした。	消費者にも食品ロスの削減に自主的に取り組む事が求められているという世の中の動きと、家庭ごみの削減が必須という気付きを得て、自分ごととして課題解決に向かった。考えの有効性を記事で確認し達成感を得た。
5年 社会科 「工業生産を支える人々～自動車づくりに励む人々～」 ＜研究発表会提案授業＞	児童の驚きや自己の認識とのずれから課題意識を導く目的で、「課題」で見出し「自動車全社が生産休止」を提示し、課題「R社の生産が休止した事で、自動車会社全部の生産が休止したのはなぜか」を設定した。その後記事を手がかりに「考え1」記述させた。	記事の選定や提示方法が、課題設定に有効だった。全員に共通の文字情報は、「考え1」のもち易さや話し合いの共通の土台作りにつながった。考えを深めるためには記事を読む手立てと実物の部品の提示があればよい。
5年 算数 「正多角形と円」 (少人数・学習支援教室)	課題「円周は直径の何倍か」で、操作活動を通して円周率を求めた後、円周率に対する理解度の向上と算数に対する興味の喚起をねらって、「考え2」の前に、円周率が無限に続く事を掲載した記事を提示した。	記事を読んだことで、自分の考えをもちにくい児童に驚きや喜びが生まれた。これは、学習時間を肯定的な気分ですごし、自分の考えを發表しようとする姿につながった。
5年 道徳科 「ケンタの役割」	「考え1」の後、「なるほど」で実際に6年生が投書した「周りの人のことを考えて行動したい」という内容の記事を提示した。話し合いの内容を今後の生活に生かそうという気持ちをもたせることをねらった。	話し合いの途中で記事を提示すると流れが途切れてしまう。記事を考えの一つとして「考え1」の発表後に提示し、話し合いで再度引用できるようにするとよい。
5年 道徳科 「人のために ぼく・わたしは」	「話し合い」後「考え2」を書く前に、若者の善行を掲載した二つの記事を「自分もそう成りたい」という意識を強化し意欲を引き出すことをねらって提示した。読ませたい部分にサイドラインを引いて強調した。	記事の内容は子どもが思いやりや親切を考ええるのに適切であった。記事の一つに絞りキーワードに着目させるとより深まった考えを導くことができる。
6年 国語科(書写) 「ポスターで伝えよう」	ポスターの文字の適切な大きさや太さについて考える「話し合い」の中盤で、自分たちの考えの妥当性を確認するモデルとして、見出しを加工した4通りのモデルを提示し、比較させた。	比較が可能な資料提示は思考を促す上で大きな効果がある事が分かった。全員に考えをもたせるために、話し合いの中盤ではなく早い段階で提示するとよい。

6年 道徳科 「公共の乗り物に乗るときには」	公共の乗り物の座席を譲るかどうかについて、関連のある二つの投書記事から事実や意見を読み取ることで「考え1」をもたせた。記事をきっかけに他者への思いやりとはどういうことかについて多面的に考えさせた。	投書記事を「課題」で提示し他者の考えを読み取らせた事はたことは、考えさせたい事柄のイメージをもたせ課題づくりにつなげる上で有効だった。
6年 道徳科 「一さいから百さいの夢」	「話し合い」の最後に、プロサッカー選手が闘病の中でもった「もう一度ピッチに立つ」という自身の夢と、「同じ病気で苦しむ人をはげます存在になる」という他人を幸せにする夢を語っている記事を提示した。	記事の事例が教科書で得た視点と共通していることに気付き、自分のためだけだと頑張れないことでも、誰かのためだと思うと頑張れるという思いを強くした。
6年 道徳科 「自分の心に誠実に」	「話し合い」で「誠実に生きる」ことについて話し合った後、考えの補充・適用を目的に「母のために20年越しの夢を叶えようとするAさんを応援したい」という投書を提示し、話し合った内容との共通点を見つけさせた。	記事から世の中の動きや人々の考えに触れ、約束を守る事も夢を叶える事も大切であり、それは自分のためにも周囲の人のためになるという思いを「なるほど」で書いた。
特別支援学級 国語科 「かぞえうたクイズをしよう」	「課題」で助数詞のクイズを出し、「どんなことに気を付けて、数え方を決めたらいいか」と問い、その正解の説明に記事を活用した。読み取らせたい文にマーカーで色づけして提示したり、イラストに着目させたりした。	人間より大きな動物は「頭」で数えるなど、数助詞に関する具体的な規準を知った児童は、対象物に対して明確なイメージをもち、意欲的にクイズ作りに取り組んだ。
特別支援学級 国語科 「みんなが読んでくれる新聞を作ろう」	「課題」でモデルとなる自作記事と二つの見だしを提示。「どちらの見出しがよいか」と問い、「考え1」に選択した見だしと理由を書かせた。「話し合い」で実際の記事と見出しを提示し、自分たちの考えのよさを実感させた。	自作記事の提示は課題を身近に感じさせる効果がある。二者選択もよい。実際の記事は、簡単な内容で早い時間帯に提示し読み込ませると自分の見出し作りに生かせる。
特別支援学級 生活単元学習 「すてきなおとなになろう」	前時に江南高等特別支援学校を訪問。そこで見聞きしてきたことを「話し合い」で出し合った後、さらに思い出すために、同校の生徒が清掃の試験を受ける様子を取り上げられている記事を提示した。	実際に訪問して出会った人物の記事は児童の興味を引いた。さらに、「話し合いの」前半で提示すれば、児童の考えのもちやすさにつながった。
特別支援学級 生活単元学習 「おでんやさんをしよう」	課題「お客さまに出すおでんに入れる具を何にしたらよいか」を提示し、記事のランキングを示して、「みんなが好きな具を入れるとよいのではないか」という見通しをもたせたのち、考え1を書かせた。	ランキングを活用したことで、どの子にも相手の立場に立っておでんの具を考えさせることができた。事前にランキング作りを練習させておくとさらによい。
特別支援学級 自立活動 「みんなの意見 De それ正解」	「課題」で見出しにマスクングした記事を提示した。内容を読み聞かせにより知らせ「みんなが読みたくなるようにするにはどんな見出しがよいか」と問い、記事から見つけたキーワードを用いて見出しを書かせた。	身近な食べ物であるスイカの記事が児童を引きつけた。「考え1」前で、写真とキャプションに限定して再提示すると考えをもたせやすい。
特別支援学級 自立活動 「見えない危険に 対応するために」	「課題」で SNS が関わった児童誘拐事件の新聞記事を提示し、「一番危険なことは何だろうか」と問い「考え1」を書かせた。「話し合い」の関連記事を提示し「SNS で知り合った人と会うのはとても危険」を導いた。	記事の内容を絵や図として板書に表したことで「考え1」がもちやすくなった。被害件数の増加を示すグラフを提示したことで現実味が増し、児童の問題意識が高まった。

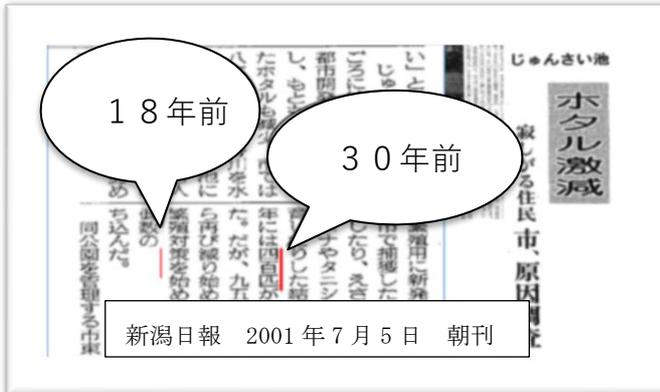
#### <活用した新聞の保管について>

授業のねらいにあった記事の発見・選定・教材化の困難さに対応するため、指導案と新聞およびその他の教材を実践ごとにクリアファイルにセットして保管している。

### (3) 新聞提示の工夫

本文だけでなく見出しや写真・レイアウトにも制作の意図が含まれているという新聞の特性から記事全体を提示するのが望ましいが、児童の発達段階や授業のねらい・時間配分等を考慮し、より活用の効果が高まるよう工夫して提示した。

比較させたい数値を抜き出し 強調して提示



記事の数値を実感させるために実物大のモデルを提示



写真と見出しのみを提示



メイン記事に着目させるため、実際の記事を配付  
児童も教師と同じ作業を手元の記事で実施



### (4) 新聞に親しむ日常的な活動



家庭学習で書いたワークシートを持ち寄って意見交換する児童。友達の考えをもとに再度記事を読み返している。



朝学習で記事を読む児童。なるほどと思った文に線を引き、その事柄について自分の考えを書いている。

## (5) 創立70周年記念事業の一環として新聞の記録性を生かした学習を展開

創立70周年を迎えた今年度、3年生の総合学習において、地域の「お宝」を発見・価値付けし「お祝いカルタ」として発信する活動と記念植樹を行う活動を核とした単元を設定し、その過程で学校の歴史や地域の人々とのつながりが分かる過去の新聞記事を活用した。以下、活用の概要を児童の姿を通して述べる。

- ① 自分が発見した「宝」を他の人にも「宝」と思ってもらえるよう読み句の解説文を書く場面で、「宝」とする根拠を新聞記事から導き、自分の考えに説得力をもたせた。
  - ・ 「新潟地震からの復興」が「宝」として児童は、校舎・校地に甚大な被害が出た様子を伝える記事やその頃の人々の生活の様子を伝える記事を読み、「この状況から立ち直るのは容易ではなかったはずだ」という気付きを根拠として読み句の解説文を書いた。
  - ・ 「自分たちを支えてくれる人」が「宝」として児童は、学校や地域を扱った記事には、地域の人々の活躍や地域への思いが掲載されている事を知り、「物や場所だけでなく、人やその功績、人のために尽くそうという思いも宝になる」という気付きを根拠として読み句の解説文を書いた。
- ② 地域の方から託された桜の苗を地域の人々からも大切にされるシンボルツリーに育てるにはどうすればよいかを考える場面で、新聞記事で過去の植樹の事例を調べた児童は、時間の経過とともに植樹の事実や人々の願いが忘れ去られていく実態があることをつかみ、危機感をもって話し合いを重ねた。
  - ・ 学習課題「植樹の際自分たちがすべき事は何か」に対し、木の近くに看板を立てたり新聞を発行したりして広報活動を行うといった考えの他に、記事の事例を引いて「地域の人や専門家に協力を呼びかけ一緒に活動する」という解決策を導いた。
  - ・ 協力者を求める意義については、記事で紹介された人々の思いを根拠に「自分たちのためになるだけでなく、地域の人にとっても自分の力を子どもたちのために役立てられたという達成感につながるのよ」という考えで一致した。

## 3 おわりに

新聞活用学習により、児童は、文章を読み取る力、必要感をもって情報を収集したり話し合ったりする力、工夫して発信する力などのコミュニケーション力を高めた。教師は、これらの力の育成に寄与する記事の発見に向けて広く新聞に目を通したり授業者間で情報を共有しながら、自己の授業課題を解決する授業設計力や実践力を高めた。

また、実践・研究委嘱校としての3年間の実践は、地域貢献の考えをもって行う学習活動の質を高め、児童や教職員が地域の一員としての自覚をもって熱心に活動する姿を引き出した。これは、地域の方からの賞賛や支援の申し出につながった。さらに、児童による学習成果の発信が架け橋となり、学校と地域との信頼関係が高まった。

今後児童が進んで新聞を手に取り、記事を読んで考えたり話し合ったりして社会とつながろうとする力を身に付けるためには、その力の育成に向けて、新聞を読む必要感や発信の必要性を実感できる学習を組織することが必須である。

3年間の指定研究を終えた今、これまでの成果を生かした新聞活用学習の日常化を目指して、新たな一歩を踏み出したい。(渡邊 裕子)